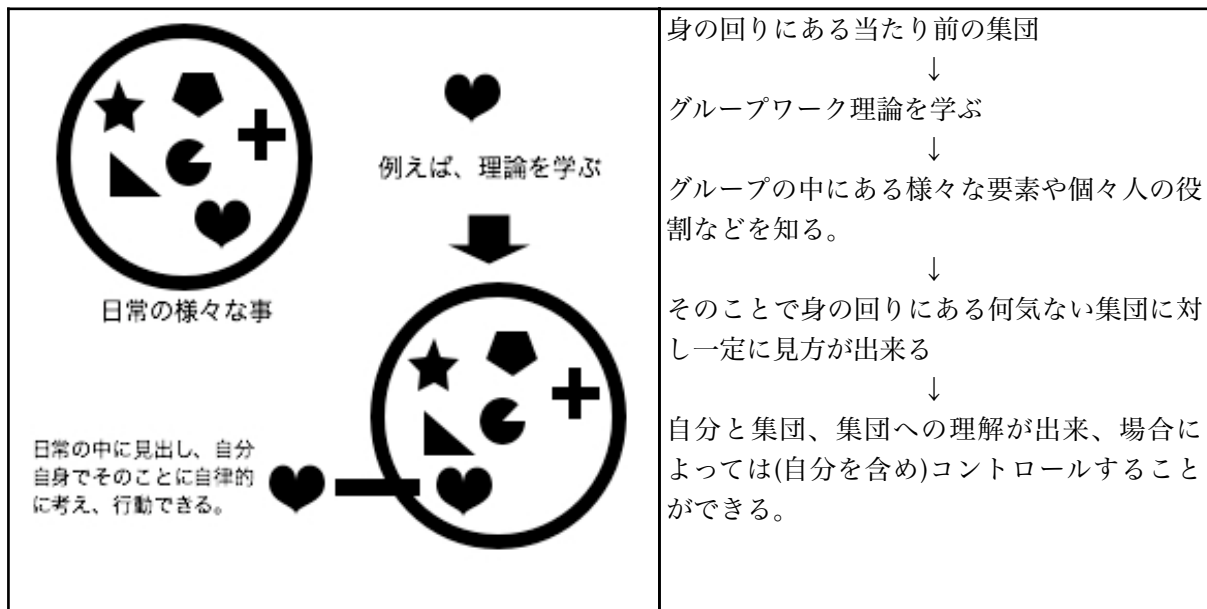
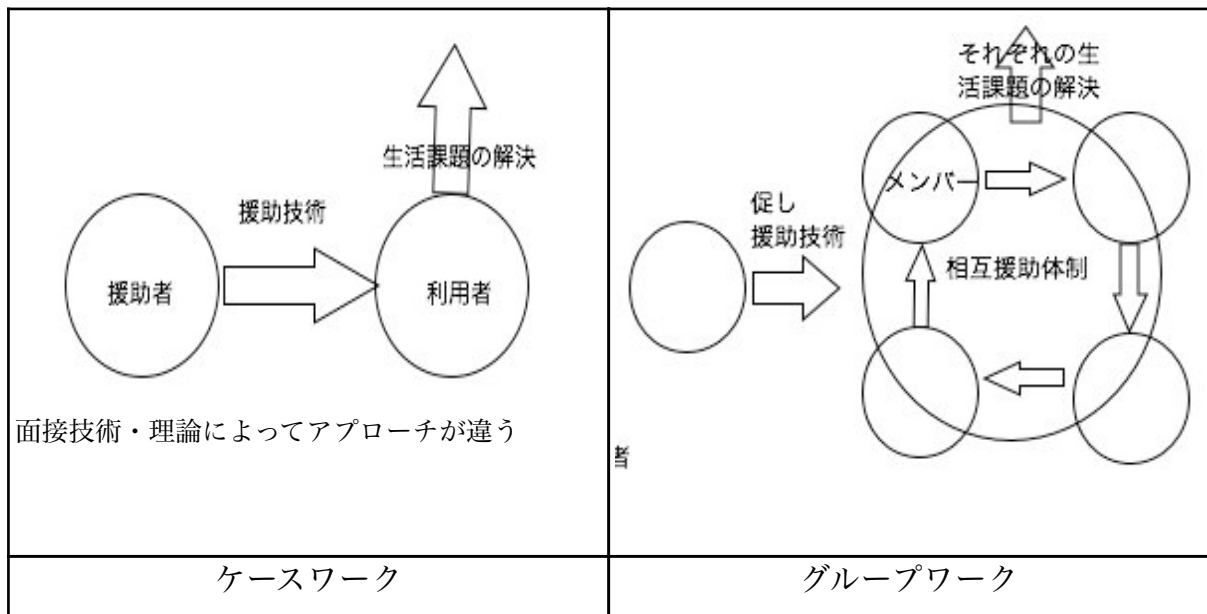


1.理論を学ぶ事について



2. ケースワークとグループワーク



共通しているのは、コミュニケーション技法である事。それは相互作用についてのアプローチである事。

3.集団を学ぶ意義について

1. グループワークはグループを活用する理論である。
2. そのためには、a)グループとは何か、b)グループが個人に与える作用を知らないといけない
3. そして、社会福祉固有の理論である事から、その意味について措定しないといけない。

4. グループについて

<p>国、地域、経済、社会、家、個人</p> <p>国際や歴史からの影響</p> <p>矢印スタイルの選択と影響</p>	<p>統治・管理</p> <p>優位な生活モデル</p> <p>外延</p> <p>病院・福祉として包摂</p> <p>推奨されない生活モデル</p> <p>障害者・廃疾者</p>
<p>管理・秩序 社会的防衛 社会的養護の縮小</p> <p>家庭養護の言説の強化</p> <p>家庭</p> <p>包摂</p> <p>障害者</p> <p>介護</p>	<p>多数派にとっての 安心・安全=秩序の維持</p> <p>対抗言説 世論・メディア</p> <p>福祉従事者</p> <p>障害者</p> <p>家族</p> <p>学者</p>
<p>1.病人は社会において生産できないが故に常識的社会にとって逆機能である。</p> <p>2.とはいえ、病人は回復すればまた生産が行えるが故に治療は社会にとって有意である。</p> <p>3.しかし、治る見込みのない病人は生産の見込みがないが故に常識的社会において逆機能である。</p> <p>続けて、社会は、病人を社会の外部に放逐する。しかし、社会は、放逐された病人が、そのままの姿で集团的に社会に立ち現れるのをおそれる。だから、社会は病人を患者として個別的に専門家と親密権の支配下に組み込む。決定不可能なゾーンのただ中で快復の希望を通して、患者役割を担わせる。その犠牲の構造が侵入する」とする</p>	<p>ドミナントストーリー(支配的言説)</p> <p>↓</p> <p>オルタナティブストーリー (対抗言説・語られない言説)</p> <p>批判を力に別様の世界を提示。安易な結論の禁止</p> <p>メディアリテラシーなど</p>

5. グループの発展について

発達段階	グループ及びメンバーの状態
参加と初期	儀礼的でまた表面的 最初の各人の目標は相互作用のための安全なパターンを作り上げる 対人的間:各人は内包の強さのレベルを変化させながら仕事をする グループの中に存在する曖昧さに対する耐性に従って、この最初のステージはスムーズになったりフラストレーションが生じたりする。
権力と統制	個人は自分らしさや勢力、影響力を再び獲得するために各メンバーの差異に挑戦し始める。グループ内にリーダーが出現するときと同様に、グループメンバーは反応し、リーダーに対して攻撃をする グループメンバーがグループ内の意思決定において受容的な手順／プロセスを生み出す試みをたゆまなくやり続けることで、次のステージへ導く
親密さと分化	課題を達成するために役割とプロセスを相談し始める。グループは凝集力を持ったユニットになる。機能的な関係が探求され確立される 対人関係:深いレベルで他者へのケアリングと愛情を持つようになる。 私たちのグループとしてのアイデンティティを持つ。
終結と移行	目的が達成される、時間が終わるとグループは再定義か解散の道筋を辿る。 わかち合った体験はグループのメンバーを強く結び付けている。そこで学んだことを育てることができるならば、その精神とか体験は生き続ける。

* 治療教育力についてのいくつかの誤解について

6. グループワークの定義

福田垂穂（たりほ）：

「ソーシャルグループワークとは、民主社会の原理と、目標の枠組みの中で、個人と社会がそのニーズを充足し、かつ調和的な発展と、価値基準の不断の拡充を遂げるために、集団と集団の持つ相互作用を、意識的に活用するグループワーカーの援助と指導の下に、社会福祉の専門的な場において、プログラムを通じて行使される方法論の一つであり、また過程である。」

7. グループワークの分類

	グループの種類	
特性	治療グループ	課題グループ
絆	メンバーの個人的ニーズ	達成される課題
役割	相互作用通して発達する	相互作用を通して発達、割り当てられる。
コミュニケーションパターン	オープン	特定の課題についての討論に焦点化する。
グループ進め方	グループによって柔軟、あるいは形式的	形式的・規則的
メンバー構成	共通の関心、問題、あるいは特性に基づく	必要とされる才能、専門性、または業務の分担に基づく
自己開示	高い事が期待される	低い事が期待される。
秘密保持	通常、プライベートになされ、グループ内にとどめられる。	プライベートに進められるが、時々公共にオープンにされる。
評価	処遇上の目標に達成するメンバーに基づく成果	課題や責務を達成するメンバーに基づいた成果あるいは、できあがり。

8. 治療グループワークの分類

特性	グループの目的				
	サポート	教育	成長	治療	社会化
目的	メンバーが生活の困難に対処能力を再活性化できるように援助する事	発表、討論、そして経験を通して教育する事	メンバーの潜在能力、気づき、洞察を発展させる事	行動を変化させる事。 行動変容の介入を通して、矯正、リハビリ、対処、そして問題解決	コミュニケーションとソーシャルスキルを高める。 ロールプレイなどを通して対人関係を改善
リーダーシップ	共感的理解と相互援助の促進者	教師、話し合いの構造の提供者	促進者、役割モデル	専門家、権威者	プログラムのディレクター(演出)
焦点	生活困難への個人の対処能力相互作用	個人の学習学習のための構造	アプローチに依存活動→個人の成長	個人の問題、目標	活動の手段、参加
絆	経験の共有	技能の発達	共通の目標	個人と集団の目標、ワーカーとメンバー、メンバー同士	共通の活動、状況
メンバーの構成	共有の生活経験多様	教育・技能レベルの類似性	多様・メンバーの能力	多様・同じ問題や課題を持った人々	グループの位置づけにかかる
コミュニケーション	情報の共有など課される教材への自己開示	しばしば教訓的自己開示は低い	高い相互作用 自分の意見に責任が伴う事も 自己開示は中程度	アプローチ次第 自己開示は中程度	活動による。 自己開示は中程度・非言語的

9. グループワークの展開過程

展開過程	主な内容	
準備期	グループ計画 グループ形成計画 波長合わせ	テーマ、機関の目的 種類、人数、活動の吟味(回数・時間・場所など) ロールプレイ、打ち合わせなど
開始期	参加と初期 援助者のリーダーシップ	サブグループの形成も含まれる 支援・再構成・直接的な指示・忠告・指示・資源の提供など
作業期	権力と統制・親密さと分化 規範	相互交流の活発化・仲間感情の醸成(凝集性) ルールの設定、規範の良いところ
終結期	終結と移行 記録と評価	終結のスタイル 独自性としてのロールプレイ・ビデオ視聴

10. 援助者の役割

	<p>グループワークは、個人を集団に適応させるものではないこと。 北川清一（1993）「養護施設における集団を媒介とするソーシャルワーク実践の成立可能性について」『明治学院論叢』515, 183-216から</p> <p>「子供の全面的発達に帰するものとしての援助～多様性や選択の自由など主体性の尊重から、子供たちが施設内で直面している生活上の課題に対応するため「どのような体験を提供するのか」によって、いかに「問題処理能力」「生活形成力」「危機回避能力」「人間関係の形成能力」を育むかが実践課題となる。そのためには施設内での規律などを出来るだけ緩やかにするなど、選択の自由などの幅を広げる必要がある。</p>
--	---

11. グループワークとしての援助者の役割

行動促進役	メンバー全員の意見、アイデア、感じたことの価値を認め、それをメンバーに伝える。ワーカーは計画に関するメンバーの心配事や気持ちを率直に表すように促す
仲介役	メンバーの計画への取り組みに役立つ地域の資源を見出す。グループワークを行っていく上で、メンバーが適切なサービス、利用資格、その他の利用条件を知ることが出来るように援助する。
媒介者	グループの内外で、メンバーと、メンバーやその他の人、期間との間の議論、葛藤、あるいは食い違いを解決する手助けをする。
代弁者	特定のニーズに対応するサービスや社会資源がないとき、人々にそのニーズの存在を知らしめ、新しいサービスを作り出すことも、代弁者の役割に含まれる。あるいは、新しいサービスや社会資源を作り出すことも含まれる。
教育者	新しい情報をメンバーに提供し、心配事を解決する手助けをする。モデルを示して新しい、あるいは、改善された行動様式を示す。

12. レポート・論文についてのいくつかのこと

基本的には論理構成(起承転結)が大切。誤字・脱字など基本的な事。事例を用いる場合の注意。

引用と参考文献にはルールがあり、レポートではあまり留意されないが、ものを書くときの基本中の基本である。

小笠原喜康（2002）『大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書

論文を読む事の意味

- ・自分なりの意見を持つには、様々な意見を読み再構成する事。
- ・専門書とは違い論文は長くて20ページ程度であり、エッセンスが凝縮している事。
- ・自分自身で知りたい事を調べ、収集し、少しずつ積み重ねていく事が楽しい事であること。

小笠原喜康(2003)『インターネット完全活用編：大学生のためのレポート・論文術』講談社新書

- 1.月刊福祉（全国社会福祉協議会）
- 2.ソーシャルワーク研究（相川書房）
- 3.社会福祉研究（鉄道弘済会）

そのほか、自分の領域の専門誌もあるかと思います。(例：障害者問題研究など)